

名作から読み取れる生きる意味とは

「鴻鵠の志」育成事業

美郷町出身で筑波大学名誉教授・精神科医である高橋正雄氏が講師を務めた「鴻鵠の志」育成事業の講演会が、10月30日に美郷中学校で開催され、町内各小学校の6年生および美郷中学校の全校生徒が参加しました。高橋氏は「病みながら生きる存在としての人間―『運命』はなぜ名曲か?」と題した講演の中で、童話「ブレーメンの音楽隊」、ベートーヴェン作曲「運命」、宮沢賢治作「雨二モマケズ」「銀河鉄道の夜」などを解説しながら、人生の意味と目的、障害の受容、ヤングケアラーといじめの問題などについて触れました。高橋氏は「ピア(仲間)は、人生に新たな意味と生きる目的を与え、絶望から立ち上がる勇気を与えてくれる」と話し、また「ベートーヴェンも障害があったことによって素晴らしい作品を残したという一面がある。やむを得ずそうなることがあっても自分の新しい人生を生きるのだとプラスに考えることで、自らの創造の糧にしていけることができる」とも話しました。会場の児童・生徒は真剣な眼差しで聞き入っていました。



高橋正雄氏

来年に向けて交流深める

みさとキッズわくわく交流会

町内各小学校の6年生が参加する「みさとキッズわくわく交流会」が、11月2日に美郷町総合体育館リリオスで開催されました。この交流会は、各小学校の児童がさまざまな活動を通してふれ合うことによって互いの理解を深め、中学校入学期に感じる不安や緊張を和らげることを目的として毎年開催されています。交流会では、同じグループになった児童同士での名刺交換や、講師から指導を受けながらみんなで協力して取り組む「グループワーク活動」を行いました。参加した児童からは「これから中学校で一緒に仲間の絆ができて良かった」といった感想が聞かれました。



早めの骨粗しょう症予防を

医療と健康を考える集い

大曲仙北医師会と美郷町、美郷町医療協議会が主催する「医療と健康を考える集い」が11月4日に美郷町住民活動センターで開催され、本郷道生氏(秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻理学療法学講座教授)が「正しく知ろう!骨粗しょう症～運動で骨折を予防～」と題して講演しました。本郷氏は「骨折して初めて骨粗しょう症だと気づく人が多い」「骨密度が減ってから増やす、骨折してから治療するのではなく、予防することが大切」と話しました。講演後には健康運動指導士の黒田恵美子氏による運動実技指導も行われ、参加者は家でできる予防体操を教わりました。



本郷道生氏

1票の大切さを考える

選挙啓発出前講座

秋田県と美郷町の明るい選挙推進協議会・選挙管理委員会が主催する「選挙啓発出前講座」が、11月10日に美郷中学校で開催されました。当日は美郷中学校3年生が参加し、選挙制度について学んだ後、実際の投票所と同様の流れで投票する「模擬投票」が行われました。模擬投票では、県・町の職員に加え、明るい選挙推進協議会委員が受付や投票立会人を務めました。生徒は明るい選挙推進協議会委員に教えてもらいながら、投票の流れを体験しました。



迫力ある音楽で観客を魅了

陸上自衛隊第9音楽隊 コンサート2023in美郷

美郷町での演奏は10年ぶり2回目となる「陸上自衛隊第9音楽隊」によるコンサートが、11月12日に美郷町公民館で開催されました。会場は多くの観客で埋め尽くされ、「イーグルフレスト」で幕を開けた今回のコンサート。「ディズニー50周年セレブレーション」「秋田県民歌」「美郷町民歌」などが演奏されました。最後には観客席に降りての演奏も披露され、多彩で迫力ある音楽に会場は大いに盛り上がりしました。



MISATOPICS

町の話



展示で巡る須藤玲子の布づくり ～ NUNOの世界へホップ・ステップ・ジャンプ!～

美郷町学友館では、布をテーマにした特別展「展示で巡る須藤玲子の布づくり～NUNOの世界へホップ・ステップ・ジャンプ!～」を12月3日まで開催しています。初日の10月28日には、開会行事終了後に須藤氏によるギャラリートークが行われ、素材ごとの特徴、染色や柄の説明などを話しました。今回の展覧会では、既成概念にとらわれない自由な作品とダイナミックな空間が広がっています。

また関連行事として「つぎつぎ布ワークショップ」が、11月18日に美郷町住民活動センターで開催されました。当日は、町内外から参加した20名が、用意された布の中から4種類7枚を選び、スカーフや風呂敷を作りました。時には須藤氏からアドバイスを受けながら、オリジナル作品の制作に夢中になって取り組む参加者の姿が見られました。



今年も師走に入り、一年の締め括りの月となりました。振り返ると、忙しさも相俟^{あいま}つてか「一年が短いなあ」という感慨に至ります（単に歳を重ねた結果の特徴かも知れませんが）。こうした今年、最も印象に残っているのが、夏の異常高温です。連日の猛暑に熱中症やら作物への影響やらを心配した日々でした。

そして、残念ながらその心配は的中してしまいました。最も大きいのが水稲「あきたこまち」への影響です。高温障害による乳白粒や背白粒が多く発生し、一等米の比率が大幅に低下。本来、一年の難儀を収穫という形で喜ぶことができる「出来秋」のはずですが、気持ちには満足とは言い難い心境に

あるように思います。ただし、食味は例年同様、美味しいことに変わりはありません。新米の香りは充分にありますし、食感もモチモチ。従前のあきたこまちとの差を感じません。その点であきたこまち生産農家のみなさんには、しよげずに来年もがんばっていただきたいと思えます。また、こうした応援の気持ち、きつと消費者みなさんも共通して持っているはずと、私は信じております。

もちろん、こうした応援の気持ちは行政機関も同じです。昨年からは今年にかけては、物価高騰の中でも営農を「がんばれ!」という認識で、春先使用の肥料に支援策を講じてきたところです。ちなみに商工事業者等には、全分野が対

支援の内側

COLUMN WINDS
コラム
風

美郷町長
松田知己



▲学友館特別展の開会行事であいさつをする松田町長

象ではありませんがエネルギー価格高騰に関して支援策を講じてきているところです。

そして今回、異例と言っているお米の状況に鑑み、新たに水稲の営農継続を支援する施策を準備することにしました。町議会で予算審議いただいたのち、然るべき時期に農家のみなさんに詳細を提示したいと思えます。農業は産業の一つではありますが、国の食料安全保障に関わる産業です。農家のみなさんにはその矜持^{まうと}を持って、来年営農にがんばっていただきたいと思えます。

とても寒い日、ポケットに入れたカイロは、体の暖かさのみならず、心にも温かさを生むように思います。この度の施策、小さいかも知れませんが、そう感じていただきたいと願っています。